

# ノンテリトリアルオフィスにおけるパーティションの高さ選好

長光 翔一

Shoichi NAGAMITSU

## 1 はじめに

近年オフィスにおいて、ルーチンワークより独創性の高い企画やアイデアなどが求められており、働き方に変化が表れている。そのような変化に合わせて新たなオフィス空間が求められており<sup>1)</sup>、ノンテリトリアルオフィスと呼ばれるオフィス内のスペースを個人ごとに割り当てず複数人で設備を共用するオフィス計画手法が登場した<sup>2)</sup>。ノンテリトリアルオフィスを導入することにより、執務者同士の偶発的な会話を誘発することが可能となり、知的生産性の向上が期待されている<sup>1)</sup>。

しかし、ノンテリトリアルオフィスを導入することで新たな課題が考えられる。まず、執務者同士が容易に交流できるために、集中して執務を行いたい執務者が集中して執務を行うことができないという問題が考えられる。

次に、同じ机を複数人で共有しながら執務を行う場合、隣の執務者との執務空間の境界が明確でない場合が考えられる。そのため、必要以上の執務領域を取りやすくなり、隣の執務者の執務領域を狭めてしまうという問題が考えられる。

そこで本実験では、これらの課題を改善するため、執務内容に合わせてパーティションを設置し、執務者に対する執務快適性への影響を検証する。

## 2 パーティションの高さについて

白石らが行った島型対向式のオフィスでの実験では、パーティションを導入することで集中が必要な執務を快適に行うことができるという結果が報告されている<sup>3)</sup>。次に、机上面から 30 cm 程度の高さのパーティションを設置することで、正面に在席する執務者とのコミュニケーションも取りつつ、執務も快適に行うことができるとの報告もある。

## 3 パーティションの高さ選好実験

### 3.1 実験概要

前章で述べた通り、島型対向式オフィスにおいてパーティションの高さが執務者に対して執務快適性に影響を与えることが明らかになった。よって、本実験ではノンテリトリアルオフィスにおけるパーティションの高さが執務者の執務快適性に与える影響を検証する。高さを 4 段階設定し、各高さのパーティションにおける執務快適性や選好性についての検証を行った。以下にパーティ

ションの高さおよびその高さの設定基準を Table 1 に示す。なお、0 cm のパーティションでは黒いテープを用いて執務領域を分けた。

Table 1 パーティションの高さとその設置基準

高さ [cm]	高さの基準
0	執務領域の明確化
10	隣の執務者の手元が見える
30	隣の執務者の手元が隠れ、対面する執務者の顔が見える
50	対面する執務者の目線が隠れる

また、本実験で設置した各高さのパーティションの写真を Fig.1 から Fig.4 までに示す。

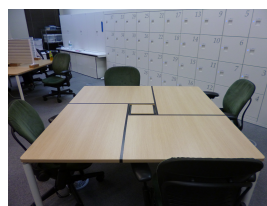


Fig. 1 0 cm

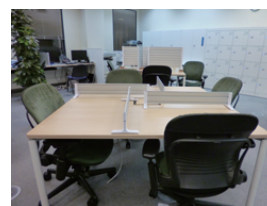


Fig. 2 10 cm

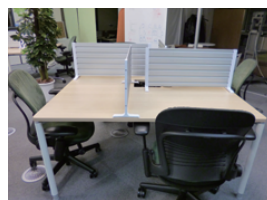


Fig. 3 30 cm

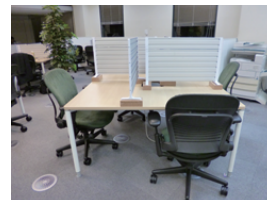


Fig. 4 50 cm

実験期間は 2012 年 11 月 19 日から 12 月 2 日までの日曜日を除く 12 日間で評価実験を行った。被験者は 21 歳から 25 歳までの男女 34 名である。実験環境は同志社大学理工学部香知館 KC104 である。実験室のレイアウト図および実験に使用したエリア (以下、実験エリア) を Fig.5 に示す。なお、本実験ではフリーアドレス制を導入し、座席の選択および変更は自由に行うことができる。そのため、Fig.5 に示した実験エリア以外を使用できるが、その場合は本実験の対象外とした。

### 3.2 実験結果および考察

各座席の選択履歴から、特徴的な被験者 2 人の座席選択の選択履歴を示したグラフを Fig.6 に示す。また、実験期間中の被験者の選択傾向をまとめた表を Table 2 に示す。なお、実験エリアを使用した 21 名を対象とした。

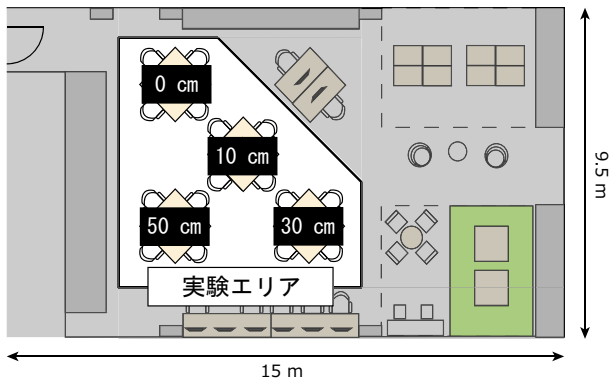


Fig. 5 実験室のレイアウト図

表中の「その他」には、実験エリアを一度だけ使用した被験者など、実験エリアの選択回数が低いためにグループ分けができなかった被験者が含まれている。

Table 2 実験期間中の選択傾向とその人数

	選択傾向	人数 [人]
A	同一の高さを選択する	6
B	2種類の高さを選択する	8
C	満遍なく選択する	2
	その他	5

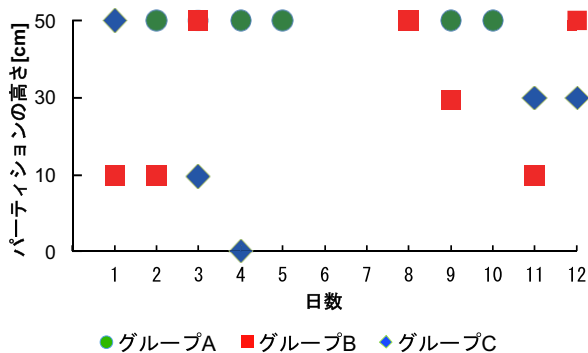


Fig. 6 各被験者グループの選択履歴

これらの結果から、1または2種類の高さを選好する被験者が多いことがあることが明らかになった。

また、実験終了後にアンケートを行った。アンケートは各パーティションの高さで執務を行った場合の快適度を5段階で評価してもらう5件法を用いた。その結果をまとめたグラフをFig.7に示す。今回は5段階の快適度から評価5を「快適である」、評価4を「やや快適である」、評価3を「どちらでもない」、評価2を「やや不快である」、および評価1を「不快」とした。また有効回答数は32で、うち13名が実験エリアを選択しなかったため、19名のアンケート結果をまとめた。さらに、実験エリアは使用したが、ある高さのパーティションは一度も使用しなかった被験者については、グラフ中の使用

しなかった高さにおける項目の「選択していない」に含めた。

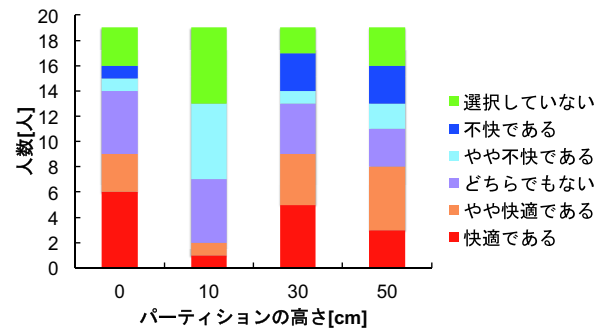


Fig. 7 各パーティションの高さのアンケート結果

アンケート結果から、10 cm 以外のパーティションが快適であるという結果が明らかになった。

まず、0 cm のパーティションを好む理由として、開放感があり会話しやすく、また執務領域を広く使用できると感じるからという意見が多く見られた。しかし、隣接する執務者の執務領域に自分の荷物等が侵入しないように気を配ってしまい、ストレスに感じるという意見も見られた。

次に、10 cm のパーティションを好む理由として、開放感を保ちつつ隣の執務者の荷物がはみ出さないのが良いという意見が見られた。しかし中途半端な高さであり、0 cm に比べパーティションを設置する領域分狭く感じてしまうため不快であるという意見が大多数であった。

30 cm のパーティションを好む理由として、圧迫感がなく作業に集中でき、また、近接する執務者と会話しやすいという点で評価が高かった。しかし、高さが集中するのに会話するのも中途半端であるため、執務を行うには不快に感じたという意見も見られた。

最後に、50 cm のパーティションを好む理由として、集中するのに最適であるという意見が大多数であった。しかし、圧迫感および閉塞感を強く感じてしまうため、執務を行っていくという意見も多く見られた。

以上より、パーティションの高さについては選好傾向はあるものの、快適性に関しては個人差が大きく表れることが明らかになった。よって、パーティションを導入する際には個人の選好性を考慮する必要があると考えられる。

## 参考文献

- 1) 章何岡本. コミュニケーションマネジメントによる知的生産性の向上. 知的資産創造, Vol. 7, No. 1, pp. 93-101, jan 1999.
- 2) 信治鈴木. 時間、場所から解放された新しい働き方. 電子情報通信学会技術研究報告. OFS, オフィスシステム, Vol. 96, No. 70, pp. 19-25, may 1996.
- 3) 光昭白石, 和雄杉山, 典彦森. オフィスにおけるローパーティションのワーカーに及ぼす影響: 対向式レイアウトを中心として. デザイン学研究, No. 95, pp. 25-30, jan 1993.